

初めて父親になる男性のコペアレンティングに関連する

父親像形成および諸要因の検討

○山崎晶子，濱西誠司（関西福祉大学），泊祐子（関西福祉大学看護学研究科）

I. はじめに

夫婦に初めて子どもができたときの周産期における夫の父親役割獲得プロセスは、6つの段階があり、周産期の最終段階の「父親役割行動の具体化」を育児期のスタートと示唆している（木越ら、2006）。米国の初婚の夫婦182組を対象に妊娠第3期と出生後9か月に夫婦の育児の協同について調査したAltenburger, L. E, et al. (2014)の結果では、妊娠第3期に夫婦の育児の協同の質が高い夫婦は出生後9か月の時点でもより高かったことが報告されていた。つまり、初めて妊娠中の父親像の形成と出産後の父親役割行動との関連を示唆していると考えられる。

そこで、本研究は初めて親になる男性のコペアレンティングに影響すると予測される父親像形成や父親像の行動化等の諸要因を明らかにすることを目的とした。

II. 方法

対象者は、子どもがいる18歳～55歳の男性とした。適格基準は、配偶者があり、第一子で実子である3歳未満の子どもを養育している父親とし、Webを用いて無記名自記式質問調査を行った。

調査内容は、「コペアレンティング（CRS-J）」尺度、「父親像形成」尺度、「父親像の行動化」および「基本属性」等である。調査期間は、2022年3月下旬から約1週間である。

III. 結果

分析対象は、全ての回答を終了した1621人とした。対象者の平均年齢は37.2±6.0歳であった。

分析の結果、父親らしさ尺度の3下位尺度得点はいずれも有意にCRS-J全体評価の得点に影響していることが示された（ $p<.001$ ）。コペアレンティングは父親像形成の影響を受けており、特に父親像形成の3下位尺度の中でも【妻への思い】が最も強かった。父親の年齢による群間比較では、父親の40歳以上群が40歳群以下の低年齢群に比べて父親像形成は低く、さらに父親の40歳以上群が18-29歳群と比べて、コペアレンティングが低かった。父親像の行動化変数である「胎動を確認した主観的頻度」の高頻度群や「赤ちゃんのイメージ」ができた群は、父親らしさ尺度の全体得点および3下位尺度の得点が高く、胎動の確認や赤ちゃんのイメージの変数の要因に有意差が認められた。

対象者の「年齢」「年収」、「妻の就業」「夫婦以外の育児・家事支援者」「胎動を確認した主観的頻度」および「赤ちゃんのイメージ」はコペアレンティングに影響しなかった。

IV. 結論

1. 父親像形成の高低はコペアレンティングに影響を及ぼしており、父親像形成が高いとコペアレンティングが高くなることが推察された。
2. 父親の年齢が高い群は、父親像およびコペアレンティングのできにくさが推察された。胎動の確認が高頻度群と赤ちゃんのイメージができた群は父親像の形成に差が生じることが予測された。

今後、妊娠期からコペアレンティングを視野に入れ、妊娠中および出生後早期に父親像形成を促進する支援の必要性が示唆された。